



AUE News

2011年12月1日

第 29 号

編集・発行

愛知教育大学広報部会

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



目 次

● 省エネニュース@愛教大

● 行事予定(12月1-15日)

● トピックス

- ・豊橋市立東部中学校、安城南高校が本学見学
- ・市川房枝没後30周年記念企画展が開幕
- ・JICA集団研修閉講式
- ・秋祭2011
- ・教育臨床総合センターが公開講演会・上映会
- ・折り紙展
- ・音楽科学生有志がミュージカル上演
- ・イルミネーション点灯式
- ・碧南市教育委員会と連携協定覚書締結式
- ・総合防災・防火訓練
- お知らせ・報告・投稿

- ・塩田浩喜さんが「世界ラン会議」ポスターセッションで1stリボン受賞
- ・近藤安由美さん、金田早織さんの工芸作品が公募展入選
- ・松本昭彦教授、キム・ユリさんの絵画作品が公募展入賞
- ・第1回ATフィールド
- ・第1回現代学芸課程教育成果セミナー
- ・あいこね学生FDスタッフが「キャンパス・ビジョン」に参加
- ・松田学長ら協定校南京師範大学訪問、学術協定延長調印式に出席
- ・松田学長が第2回アジア教育大学学長円卓会議に出席
- ・松田学長が国会議員らに予算要望
- ・招へい研究員による講演会
- ・催しものの案内

省エネニュース@愛教大

2011年度愛知教育大学緊急節電対策の啓発活動として、「AUE News」で省エネに関するニュースをお知らせします。今回はNo.11(作成は「省エネワーキンググループ」)です。皆さん、引き続き、節電にご協力ください。

NO11 ハンドドライヤー使用停止で節電



ハンドドライヤー

好評のハンドドライヤーですが、「省エネ緊急対策」の一貫として停止しています。

●便所ハンドドライヤー緊急使用停止の「節電」ポイント

①学内ハンドドライヤー使用停止により、8万kWh/年削減しました！

(全体電力使用量に対して1.5%削減したことになります！)

(当面の緊急対策です。)



行事予定(12/1-15)

- 6 日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)
評価委員会 (役員部局長会議終了後 学長室)
教育実地研究専門委員会 (15:00～ 第五会議室)
個人情報保護委員会 (15:00～ 第二会議室)
- 7 日(水) 教務企画委員会 (13:30～ 第二会議室)
学生支援委員会 (13:30～ 第五会議室)
大学改革推進委員会 (15:30～ 第五会議室)
- 12 日(月) 共通科目専門委員会 (16:40～ 第三会議室)
- 13 日(火) 経営協議会 (10:00～ KKRホテル名古屋)
役員会 (13:00～ 学長室)
- 14 日(水) 教育創造開発機構委員会 (9:30～ 大学会館中会議室)
代議員会 (13:30～ 第五会議室)
教育研究評議会 (代議員会終了後 第五会議室)

トピックス

豊橋市立東部中学校と安城南高校が本学見学(11/16,24)



11月16日(水) 午後1 時ごろ、豊橋市立東部中学校から生徒20人と教員1人が訪問学習の目的で、公共交通機関を利用して来学。生協で昼食を済ませた後、第一共通棟314 教室を会場に、大学概要、カリキュラムについて総務課、教務課の職員が説明。事前に生徒から提出された、「書道に関する理論的な面を研究するとは具体的にどんなことですか」という質問に対して、職員から「例えばある作品の芸術的評価が高いとされたら、その根拠はなぜなのかを考え、理論的に裏付けること」と説明を受け、納得した様子だった。その後学内の施設を見学し、大学については、「レベルアップした人がいくところ」「敷地が広くて驚いた」「将来は教員を目指したい」などと感想を口にして、帰路についた。

*

*

11月24日(木) 午前9時30分ごろ安城南高校の1 年生84 人と教員4人が来訪。第二共通棟422 教室に移動し、数学教育講座の石戸谷公直教授による「次元の考え」というテーマでの模擬授業を受けた。内容は数学的実験を通して4次元の世界の存在を確認しようとするもの。石戸谷教授のユニークな話術で、皆楽しそうに授業を受けた。終了後、代表の生徒が、「大学の授業は堅いイメージがありましたが、見方が変わって、学びたいと思いました。貴重な体験をすることができました」とあいさつ。引き続き、職員から大学の概要やカリキュラムの説明を受けた。その後学内の施設を見学し、昼食は生協を利用し、混雑をものともせず、それぞれ好きなメニューの列に並んだ。昼食後は2グループに分かれてバスに乗り込み、次の訪問地へ出発した。



市川房枝没後 30 周年記念企画展が開幕(11/17)

本学出身の市川房枝氏の生涯を紹介する「市川房枝没後 30 周年記念企画展」が 11 月 17 日(木)、附属図書館 2 階のアイ♥スペースで開幕した。本学が主催、財団法人・市川房枝記念会女性と政治センター、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、中日新聞社、一宮市、刈谷市の後援で、12 月 20 日(火)まで開催。



男女共同参画社会の実現に尽力した市川氏（1893—1981）は愛知県女子師範学校（本学の前身）の卒業生で、参議院議員として 87 歳で亡くなるまで婦人参政権運動をはじめ女性の地位向上に奔走した。その偉業を現代の学生に伝えたい、と本学が企画した。

展示されているのは、市川氏の学生時代から市民運動家、議員としての活動までの各種写真パネルや市川氏が使ったテニスラケット、カバン、ノート、衣類に加えて本学を含む歴史年表、図書館

所蔵の教科書など合わせて 80 点。市川氏が自身について語るビデオの上映も随時行われている。

開幕した 17 日、会場では、松田正久学長、財団法人の久保公子事務局長、伊藤康子市川房枝研究会主任研究員の 3 人によるテープカットが行われた。松田学長が声を掛けて、多数の学生が集まり、明治時代の先輩に改めて思いを巡らせていた。午後 5 時からは第五会議室で久保氏が「人間市川房枝を語る」をテーマに講演した。

1 時間余の講演で、久保氏は「8 月の新聞に、市川は自分の代弁者だったとの読者の声が掲載された。今でも市川のことを思い出す人がいることは驚き」と語り、市川氏に魅力を感じ、手紙を書いて上京し、私



設秘書になった経緯と市川氏との出会いなどを説明。市川氏の生い立ちや渡米、敗戦直後など時代を追ってエピソードを交えてその生涯を語った。質実剛健に生き抜いた市川氏。久保氏は「婦人参政権は（米国から）与えられたものではなく（運動の成果として実現した）歴史を認識し、その権利を受けて女性が当選し、（政治に）参加している。この憲法を守る責任が女性にはあるというのが市川のメッセージです。絶対にいばることがなく、山荘では野草をと



って飾るなど感受性が豊かな人でもありました」と締めくくり、約 40 人の教職員らから大きな拍手が送られた。

JICA 集団研修閉講式(11/18)

国際協力機構（JICA）集団研修「産業技術教育コース」の閉講式が 11 月 18 日（金）午後 3 時から、本部棟第三会議室で行われた。

同研修は、日本の進んだ産業技術教育を発展途上の国々の教育関係者に学んでもらい、自国の教育現場で役立ててもらおうのが目的で、本学では 1999 年から毎年、研修員を受け入れてきた。今回は、ボツワナ、ミャンマー、パレスチナ、セントクリストファー・ネビス、セントルシア、南アフリカ、スリランカ、トルコの計 10 人が受講。10 月 6 日（木）の開講式の後、留学生会館に滞在し、本学での研修、企業などでの産業技術の体験や見学に参加した。

式には文部科学省の関係者、本学役員、教職員ら 30 人余が出席。松田学長は「研修中、多くの科学技術を学ばれたことと思います。教育は学び続けることが大切。自国での活躍に期待しています。日本には「光触媒」など新しい技術が生まれていますから、またいつか日本に戻ってきてください」などと英語であいさつした。





学や JICA の関係者が歓談した。

受講生には 1 人 1 人に修了証と記念品が手渡され、研修員を代表して南アフリカからのジョイス研修員が英語で「今回、多くのことを研修で学び、多くの友達もできました。愛知教育大学や JICA 職員の皆さんの熱意のこもった支援に感謝します。この研修で得た貴重な体験を、自国の発展のために伝えたい」と感謝の言葉を述べた。

式の終了後は、歓送会が第二福利施設で催され、研修生と本

秋祭 2011(11/19,20)

「燃えろ秋祭 深めろ絆 この秋嵐を巻き起こせ」をテーマに「秋祭 2011」が 11 月 19 日(土)、20 日(日)、本学で開催された。

1 日目は、朝から雨天となり 2 日間にわたって行われるスポーツ祭の中で、グラウンド使用のソフトボール、男子・女子のドッチボール、ソフトボール、ミニサッカーは残念ながら中止となったが、第一体育館、第二体育館を会場にしたバスケットボール、バドミントン、バレーボールの屋内球技大会で、学生たちは周囲の熱い声援の中、ハッスルプレーを連発して気持ちのいい汗を流した。



附属図書館南側に特設ステージがセットされ、音楽演奏を中心にダンスや合気道部の組み手で 17 団体(雨天のため、ダンスの 2 団体は附属屋 2 階にて)の学生などが日頃の成果を見事に披露。特によさこいサークルは「名古屋のど真ん中祭りにおいて、私たちの踊りを観客でいっぱいになりたいです」と宣言し、意気込むメンバーの大半はステージから下りて、雨が降る中、踊りを精いっぱい熱演していた。

また、図書館前と第一共通棟西側間の通りでは、からあげ、ホットジュース、たこ焼き、タイと韓国料理のパッタイやチヂミなどを販売する出店や第一共通棟の 1、2 階の教室において、手芸・小物販売、プラネタリウム、寄席、留学生による初々しい日本語スピーチコンテストや世界の民族衣装とパネルの紹介、



馬術部による馬場での馬試乗会など盛りだくさんの企画が展開された。1 日目の雨天で客足心配されたが、2 日目が好天となり、学生だけでなく、一般の地域住民の方なども多く来学して、盛況のうちに秋祭を終了した。



(学生支援課課外教育係長 亀山重人)

教育臨床総合センターが公開講演会・上映会(11/19)

11 月 19 日(土) 13 時から 16 時 45 分まで、「平成 23 年度愛知教育大学教育創造開発機構教育臨床総合センター講演会」が本学第二共通棟 431 教室で開催され、雨で足元の悪い中、スタッフも含め 97 名の参加者が得られた。今年度のテーマは「ろう者と聴者のこころのかけはし」である。ろう者の立場からろう者の世界をドキュメンタリー映像を通して一般の人々に伝えてきた本学卒業生今村彩子氏と、ろう者を対象とする心理ケアに 20 年以上取り組んできた神戸大学教授河崎佳子氏を講師



に招き、3部構成で行われた。

第1部は今村氏の監督した新作映画『珈琲とエンピツ』の上映と今村氏の小講演である。今村氏により映画制作に関わる思いが語られたあと、映画が上映された。映画の主人公はサーフィン&ハワイアン雑貨店の店長太田辰郎さんである。ろう者、つまり耳が聞こえない人であり、手話を話す人である。聞こえない太田さんがお客さんをもてなすために考えたのが、珈琲を入れジェスチャーで勧めることだった。そして、紙とエンピツで筆談が始まる。それまで手話を知らない聴者とは距離を置いていた今村氏だが、太田さんと出会うことによって、自分も太田さんのように相手が手話ができるできないに関係なくコミュニケーションを取りたいと思うようになる。



第2部は河崎氏による基調講演「きこえない人々の心に触れて」である。河崎氏は子どもの発達を研究する心理学者として出発するが、1990年の手話との出会いをきっかけに、ろう学校において口話主義教育によって手話を否定されてきた歴史を知るようになる。以来、ろう者とろう者の家族への心理臨床実践を踏まえて、心理臨床の視点からみた手話の大切さ、ろう者の心の奥に秘められた叫びを著書や講演を通して訴えている。

第3部は今村氏の学部時代の指導教員でもある本学障害児教育講座岩田吉生准教授の司会のもと、「こころのふれあい」をテーマに今村氏と河崎氏の対談がなされた。『珈琲とエンピツ』のナレーションをろう者である今村氏が担当することになった経緯、そのことをめぐる今村氏の様々な思いが語られた。河崎氏からはろう者の映像的思考への関心が語られ、それを受けて今村氏が自分の体験を語った。ろう者と聴者は同じであること、それでもやはり両者は違うことを知る必要があることについても意見が交わされた。



(教育臨床総合センター長 吉岡恒生)

折り紙展(11/20-27)

刈谷駅前商店街と本学との共同事業「UNO セレクション」第7弾の「折り紙展」が11月20日(日)～27日(日)、同商店街の「スペースAqua」で開催された。

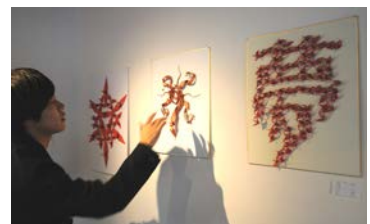
出展したのは昨年12月に立ち上げられた本学の折り紙サークル「初春(ういはる)」。

大学祭で展示した作品が、UNOセレクションをプロデュースする宇納一公教授の目にとまり、展覧会を行うことに。展示作品は約200点。動物や花、人形、連鶴など、どれも一枚の紙で



できたとは思えない手の込んだ作品ばかり。折り紙作品には、その展開図が並べて展示され、折り方と立体を見比べることができるのが同展の特徴。

初春の代表者、井戸田悠さん(初等理科選修・3年)は、「一枚の紙に切れ目を入れたり、ひだを入れる、表裏の色を使い分けることで、いろんな作品ができます。折り紙」というと伝統的な作品のイメージがあると思いますが、今の複雑な折り紙を見てもらいたい」とアピール。井戸田さん自身、展開図の面白さを知り、折り紙の制作を始め、格子状の展開図で作る蛇腹折りの鳥や人形の作品得意とする。10月には教育実習先の東郷町高嶺小学校でも、クラ



スの子どもたちと折り紙をしており、今回、その子どもたちの作品も飾られている。さらに、愛好家による「折り紙東海友の会」

の会員たちの「連鶴」の作品も会場に彩りを添えている。

20 日には小学生低学年向けのワークショップ「飛び出すクリスマスカードをつくろう！」が行われ、市内外から約 20 人の子どもたちが参加。折り紙でサンタクロースやブーツ、雪だるまや犬を折って台紙に張り、かわいい手作りカードを完成させて、満足そうだった。



音楽科学生有志がミュージカル上演(11/20)

音楽科 1, 2 年生が組織した有志団体「ミュリム」が、ミュージカル「夢から醒めた夢」を 11 月 20 日（日）午後 5 時 30 分から大府市勤労文化会館「もちのきホール」で上演した。

音楽科の有志によるミュージカル上演は、一昨年の「シンデレラ」「サウンド・オブ・ミュージック」に続く 3 回目。それぞれの年度の 2 年生が中心

になって、歌や踊り、演技、演奏をはじめ、舞台の道具や衣装などをメンバーで創作してきた。今回も、そんな先輩たちの舞台に感動した 2 年生を中心にした約 40 人が「自分たちも挑戦したい」と、春から準備を進め、演出・振付はプロに指導を依頼し、練習を重ねてきた。

「夢から醒めた夢」は、原作・赤川次郎、脚本・浅利慶太。劇団四季のオリジナルミュージカルとして全国で公演されている。主人公の少女ピコが夢の世界へと旅立ち、幽霊の少女とマコと出会い、そこから冒険が始まる。突然の死で母親に別れを告げられなかったマコのために、心優しいピコは一日だけマコと変わって幽霊の世界で過ごすことになるが…。



東日本大震災のあった今年、メンバーたちはこの作品を通して、命の尊さ、輝きを舞台の上から伝えたいと、難しいこの演目に臨んだ。笑いあり、涙あり、怒りありのドラマを、演技や歌、演奏でテンポ良く熱演し、プロ顔負けの迫真の演技で、詰めかけた約 800 人の観客を魅了した。

舞台を無事に終えたメンバーたちは「当日に舞台を作り、夜本番というハードなスケジュールで疲れましたが、それぞれが本番に一番素晴らしい演技をすることができ、終わってからは号泣でした。ミュージカルにかける思いは各自違っても、やってよかったという思いはみんな一緒です」と充実感をにじませた。

舞台を無事に終えたメンバーたちは「当日に舞台を作り、夜本番というハードなスケジュールで疲れましたが、それぞれが本番に一番素晴らしい演技をすることができ、終わってからは号泣でした。ミュージカルにかける思いは各自違っても、やってよかったという思いはみんな一緒です」と充実感をにじませた。

イルミネーション点灯式(11/23)

刈谷駅前を彩る「アクアモールイルミネーション」を、今年も美術科 1 年の有志が制作。その点灯式が 11 月 23 日（水）、午後 5 時から、刈谷駅前商店街のアクアモールで行われた。

本学の学生が同商店街と協力してイルミネーションを手がけるのは、今年が 5 回目で、今回は 37 人が参加。学生たちは夏休みごろから企画を練って、ミニチュア作りを経て、2 カ月余りかけて学内で制作。今年はテーマ



を「海」として、波しぶきを上げて海上を進む船や、イルカやタコ、クラゲなどの生物など約20種類を、美術教育の宇納一公教授のアドバイスを受ながら形にした。20日(日)にトラックで大学から会場へ運び、約500mにわたる愛教大担当のスペースに設置した。

点灯式の当日はあいにくの雨模様だったが、商店街のイベント「カリアンナイト」も行われ、地元の人々や本学関係者でにぎわった。式では同商店街関係者から「愛知教育大学の学生さん、本当にありがとうございます。ぜひ、今日は多くの方に灯りを楽しんでもらいたい」とお礼の言葉を述べた。イルミネーションのプロデューサーでもある、宇納教授は「雨の中、多くの人に参加していただき、感謝しております。



市民の方々から学生たちにいろんな意見をしてくだされば」とあいさつした。

制作に当たった学生も「今年は震災の影響でイルミネーションができないかと思っていたのですが、今日、完成した作品を前にすると、エネルギーのあるものができたと実感。作ってよかったです。私たちの作ったイルミネーションで、少しでも夢が広がったら光栄です」と完成の喜びを語った。

来賓として紹介された松田正久学長も「愛教大は地域とともに歩む大学です。学生諸君、ありがとう。よく頑張ってくれた」と、制作に当たった学生たちにねぎらいの言葉をかけた。

その後、カウントダウンのコールの中で関係者が点灯ボタンを押して、イルミネーションが灯されると、通りは幻想的な風景に一変。多くの人が趣向を凝らしたイルミネーションを見て楽しんだ。イルミネーションの点灯は来年1月21日(土)まで続けられる。



碧南市教育委員会と連携協定覚書締結式(11/24)

本学と碧南市教育委員会は、学校教育や生涯学習の充実を図るための連携に関する覚書を11月24日(木)、碧南市役所で締結した。



同覚書を交わすのは、刈谷、知立、豊明、豊田の4市に次いで5件目。締結式には、本学から松田正久学長、都築繁幸理事(学生・連携担当)、一宮登特別学長補佐、教育創造開発機構運営課職員が、同市教育委員会からは杉浦健次委員長、長田良次教育長、松井高善教育部長、羽野彰庶務課長、生田弘幸学校教育課長が、それぞれ出席。覚書の概要説明がされた後、松田学長と長田教育長が協定書に署名した。

長田教育長は「昨年8月に松田学長が市長に連携をお願いしたいと訪問され、碧南市における教育の推進のために何とか連携ができないかと準備をし、本日、協定を取り交わすことができました。今後は、教科指導、理数、日本語教育、生涯教育でお力添えをいただければありがたい。大いに期待していますので、よろしくお願いします」とあいさつ。松田学長も「2004年の法人化を契機に地元刈谷をはじめとする各自治体との協定覚書がスタート。西三河地方は外国人が多く、本学学生がボランティアとして8年以上支援してきました。一方で、ものづくりが盛んな地域で、本学も国からの資金でものづくり教育の支援をしてきました。この協定を機会に、一層、碧南市との取り組みを進めていきたい。生涯教育を含めて多様な教育支援ができますよう、よろ



しく願います」などと述べ、締結式は無事に終了した。

なお、本学は12月に高浜市教育委員会とも連携協定を結ぶ予定で、完了すれば、碧海5市すべての市教育委員会と協定が成立することになる。

総合防災・防火訓練(11/25)

2011年度の総合防災・防火訓練が11月25日(金)午後2時40分から、第一、第二共通棟、講堂前広場などで行われた。

午後2時40分、東海地震注意警報が発表されたとの想定で訓練開始。浜田泰栄総務課長が松田正久学長へ注意情報発表を報告。松田学長は非常災害対策本部設置を命令するとともに、本部長として学生に早期帰宅の指示を出すように命令し、訓練の総指揮者を副本部長の折出健二消防隊長(総務担当理事)に命じた。

学内には訓練放送が流れ、授業を受けていた学生には、速やかに帰宅またはグラウンドへの非難・待機が指示され、授業担当教員の誘導で屋外へ避難、職員が教員から点呼を確認し、避難訓練は終了した。



本部棟では消火栓操作の訓練、講堂前広場では連絡調整、救護・報告訓練や消火器操作、負傷者搬送の訓練などが、本番さながらに行われ、教職員らが真剣な表情で取り組んだ。

松田学長は職員を前に「いつどこで地震がおこるか分からない。地震はこの地方でも必ず起きます。被害を最小限にとどめるかは、訓練によります。4000人を超える学生の安全を守るため、今日の訓練を契機に、常に緊張感を持って備えをしてください」と講評し、非常対策本部の解除を宣言して、この日の訓練は終了した。

お知らせ・報告・投稿

塩田浩喜さんが「世界ラン会議」ポスターセッションで1stリボン受賞(報告)

世界のランを集めた学術会議「第20回世界ラン会議」が11月13日(日)～20日(日)にシンガポールで開催され、学生ポスターの部で大学院生の塩田浩喜さん(教育学研究科理科教育専攻・2年)が1stリボンを受賞した。

同会議は3年に一度開かれ、ラン科植物の保護活動、品種開発、研究成果などを発表するため、世界各国から1000人以上が参加する国際的な会議。今回、本学からはラン研究の第一人



者で指導教員の市橋正一教授(理科教育)と、加藤淳太郎准教授(同)、塩田さんが参加。市橋教授は1日目の13日に30分間の招待講演も行った。今回、学生ポスターの部門が新設され、塩田さんは東南アジア原産のランのシンビジウムと、南アメリカのアンデス山脈原産のランのリカステの交配に成功し、その研究成果をまとめたポスターで応募し、応募作品の中から1stリボンに選ばれた。

塩田さんは、学部4年からランの品種の交配について研究し、これまでもオランダやリスボンでの学術会議に参加しポスター発表を行ってきた。今回の受賞について「自信は全然なかったです。締め切り直前まで、ポスターのコンクールがあることさえ知らなくて(笑)、1



カ月弱で作成。写真を多めに使ったのが、よかったのかなと思います。これまで指導して下さった先生方のお陰です」と塩田さん。



11月24日(木)には、市橋教授、加藤准教授と共に学長室を訪れ、松田正久学長に受賞を報告。松田学長から「おめでとうございます」と祝福された。塩田さんは「来春からは教員になります。まずは教員をやって、(来春から開設される)ドクターコースで愛教大に戻って来たい」と話し、松田学長も「ぜひドクターコースで勉強を続けてください」と激励した。

近藤安由美さん、金田早織さんの工芸作品が公募展入選(報告)

本学の美術教育講座樋口一成(美術教育教授)研究室の大学院生、近藤安由美さんと金田早織さん(ともに教育学研究科芸術教育専攻・1年)が工芸作品の公募展で相次いで入賞を果たした。

近藤さんは、「第24回丹波の森ウッドクラフト展(木のおもちゃ大賞展)」の一般の部で佳作に入賞し、9月18日(日)～10月2日(日)に受賞作品が「兵庫県立丹波年輪の里」で展示され、10月2日には授賞式が行われた。

同展は兵庫県立丹波年輪の森で、「丹波の森ウッドクラフト展実行委員会」が主催。木工の公募展としては日本で最大規模。今回は55の応募作品があり、近藤さんの作品はグランプリ、準グランプリなどに続く、上位10位以内に選ばれた。



近藤さんの作品タイトルは「My sweet goods」。大好きなお菓子をモチーフに、テーブルカッター、鏡、カレンダー、時計などの小物の全13個の作品で、26種類の木材の自然の風合いを生かしたのが特徴。学部4年間の集大成に、新たに制作したケーキ型の小物入れを加えて挑んだ。

「入賞の連絡に、びっくりしました。展示会場では、「こんなの見たことがない」と、いろんな人に声を掛けてもらいました。小さい女の子がすごく喜んでくれて嬉しかった」と近藤さん。今後の目標は「お菓子のモチーフから離れて、技術の習得をしたい」と新たな意欲を見せる。

金田早織さんは「美濃和紙あかりアート展」一般の部で入賞した。学部2、4年に続き3回目の応募。学部2年の出品作品で入賞し、それが工芸のあかりを選択するきっかけになった。10月8日(土)9日(日)には、岐阜県美濃市の古い町並みの中で展示が行われた。

今回の出品作品のタイトルは「祈り—inori—」。震災の犠牲者への鎮魂と被災地の復興を願い、祈りの場所である教会の建物から根が生えてくるイメージで制作した。美濃和紙の原料のコウゾから自分で漉いて、紙粘土の型に貼って成形。紙を組紐の手法でひも状にしたり、糸状にして編んだモチーフをで周囲を飾り、紙だけで自立することにこだわった。全体のシルエットは、手を合わせてお祈りしているようにも見える。



「見た人が思った形で、感じてもらえたら。これからは紙にこだわって、他のコンペにも出品したい」と金田さん。

2人とも学部4年で教員採用試験に合格し、大学院修了後は小学校教員になる予定で、「これまで学んだものづくりを、将来は教育現場で生かしていきたい」と夢を語る。

指導教員の樋口教授は「現場で教える先生が、これだけしっかり自分のものづくりができるのは大切。自分の経験を子どもたち話して、いい教員になってくれたら」と2人を応援する。樋口



教授も教員と同時に、木のおもちゃ作家として活躍を続けている。11月26日（土）～2012年1月9日（月）、島根県の浜田市世界子ども美術館で「木のおもちゃ展」を開催。重力によって転がったり落ちたりする動きを楽しむユニークな作品を紹介し、12月23日（金）にはワークショップも行う予定。

（写真左から、金田さん、近藤さん、樋口教授）

松本昭彦教授、キム・ユリさんが絵画作品で公募展入賞（報告）

美術教育の松本昭彦教授のイラスト作品が、韓国のコーヒーチェーンの主催する「第6回ダヴィンチコーヒーイラストレーション公募展」で11月4日（金）に、奨励賞に選ばれた。

この公募展は、コーヒーに関するイラスト作品を募集するもので、今回は韓国国内外から800点余の応募があり、大賞、金賞、銀賞、銅賞（5人）、奨励賞（10人）が選出された。

松本教授の作品タイトルは「coffee of 8 o'clock in the morning」。朝の駅構内を行き交う人々がコーヒーを持っている様子を描いた。髪や目、肌の色が違う大勢の中には、店名にもなっているレオナルド・ダヴィンチの姿も。いろいろな国の人、有名人、知人を、緻密に描いて、カラフルでパワーあふれるユニークなイラストが仕上がった。



「コーヒーには、人をリラックスさせる、これから頑張るパワーの源になる、という効果があります。それを作品で表現しました。何パターンか考え、1点1カ月ぐらい費やしました。駅の柱や階段を消して、人を増やすうちに、一人一人違った人格が集まったときの絵の力が表現できた。描いていて面白かったです」と制作を振り返る松本教授。

結果発表を聞き、「たくさんの応募作品の中から選ばれてよかった」と笑顔で語った松本教授。入賞作品はポスターとなって、今後1年間、チェーン店を飾ることになる。

また、松本研究室では、大学院生で韓国からの留学生、キム・ユリさん（教育学研究科芸術教育専攻・1年）が、「2011年度MOEイラスト・絵本大賞」で11月に入選を果たした。

同賞は、絵本作家を目指す人のための公募展で、年5回実施され、年間グランプリを決めるもの。ユリさんは絵本「ニンちゃんのおひっこし」で応募。ベジタリアンの女の子の猫とネズミの3兄弟との、心温まる



ストーリーを描いた。以前から考えていた物語を、前期のキャラクター作りの授業で作品に仕上げた。

ユリさんは韓国の小学校教員を休学して本学に留学。日本に来て、絵本作りをはじめ、昨年は松本教授と共同制作した絵本で、優れた絵本作品に贈られる「第6回武井武雄記念・日本童画大賞」で優秀賞を受賞。

「日本の絵本は種類も多くて、内容も幅広い。ナンセンスな絵本は日本だけです。有名なボローニャの絵本コンクールでも日本人の受賞が多いんです。絵と構成と一緒にできるのが絵本で、作っていて一番楽しいです」と絵本作りに魅せられたユリさん。「来年は、松本教授との共同制作のほかに、ひとりでも作品を作りたい」と、次の制作に向けて張り切っている。



第1回ATフィールド(報告)

愛教大学生・教職員参加型FD組織「あいこね」は、Aikyo Talking Field (愛称：ATフィールド) の名称で意見交換会を定期的に行うと考えています。今回は第1回ATフィールドについて報告します。

第1回ATフィールドは、10月25日(火)午後5時から7時の2時間、第一共通棟103教室を会場に、「どんな講義がイイ?どんな講義がイヤ?」というテーマで、学生・教職員約25人が集まり飲み物やお菓子を食べながら和やかな雰囲気でした。夏に立命館大学で開催された「学生FDサミット2011・夏」で交流した他大学から、県内は名古屋大学、県外は三重大学、追手門大学、岡山大学の学生FDスタッフも参加してくれたので、初回の少ない人数ながら、非常に活発な議論を展開することができました。



会はグループワークの形式で、まず、三つのグループに分かれて、自己紹介を行い、次にいい講義、嫌な講義に関して思いついたことをメモにまとめて、これを基に議論を深めていきました。そして最後に各グループの意見を発表しました。

参加者からは「積極的に参加できるような講義がイイ」「履修の希望を考慮されずに決まった授業はイヤ」など、様々な意見が出され、大いに議論が盛り上がりました。参加者全員がこういう講義が受けたいたいという自分の意見を持っていますが、いいと思う講義を全て受講できないのも現実。また、いい講義を受けるための明確な手段があるわけでもありません。そして、講義を作っているのは基本的には先生で、学生が講義をに臨む態度を改善したとしても必ずしもいい授業になるとは限りません。

しかし、学生があきらめてしまったり、どうでもいいと考えたりしているならば、状況は変わりません。先生たちが変わってもらうためには、まずは自分達が変わり、思っていることを直接表現しなければ伝わらないと思います。

あいこねが開催するATフィールドでは、このような授業や大学生活に関する意見や不満を、他の科の学生と共有したり、教職員と直接議論したり、話し合うことができます。第2回ATフィールドは、12月21日(水)、午後5時から5時、テーマは「何なんだこのルール!? ～授業と大学生活について～」で開催します。学生・教職員のみならずが参加したくなるようなテーマを今後も考えていきたいと思いますので、多くの方の参加をお待ちしています。



(あいこね学生FDスタッフ)

第1回現代学芸課程教育成果セミナー(報告)



11月2日(水)午後2時から、ガラス工房において、特別経費「リベラル・アーツ型教育プロジェクト」が主催する、第1回現代学芸課程教育成果セミナーが開催された。

このセミナーの狙いは、現代学芸課程の各コースの教育成果をアウトリーチするとともに、その中からリベラル・アーツ型教育に生かせる部分を見出すことである。この日は学内の関係者6人が参加した。

まず工房において、学生によるガラスづくりのデモンストレーションが行われた後、視聴覚室へ移動し、佐々木雅浩准教授より、ガラス工房における最近の教育の紹介が行われた。詩を書く

ためにはまず言語を習得することが必要であることと同様に、1, 2 年では吹きガラスの創作を行うための基礎的な技法の教育や安全指導に力点が置かれているという説明がなされた。新しい授業形態として、ガラス材料について自分で調査をして講義をする形式の授業の紹介がなされた。

最後に、卒業研究の作品や、ガラス工芸の専門家として全国や海外で活躍する卒業生の実態が報告された。

コメンテーターである美術教育の鷹巣純准教授は、「このセミナーに参加したことにより、これまで専門実技教育一辺倒と考えられていたガラス工房の教育の中にも、自然科学と人文科学を橋渡しする要素があり、一般の学生を念頭においた教養教育が可能な要素がある」旨を述べた。

プロジェクト代表の大澤秀介教授は、「ものづくりリテラシー」という言葉を用いて、ガラス工房の教育の一部は、リベラル・アーツ型教育の一要素となり得ることを強調した。

セミナーの報告とディスカッションを通して、専門教育の中にもリベラル・アーツ型教育に反映できる内容や教育手法が含まれていること、及び現代学芸課程や教養教育カリキュラムの改革の中で、一般学生に当該分野の教育をどのように開放することができるか等についても大きな示唆が得られた。(教育創造開発機構リベラル・アーツプロジェクト研究員 内山弘美)



あいこね学生FDスタッフが「キャンパス・ビジョン」に参加(報告)

11月3日(木)、徳島大学で行われた「キャンパス・ビジョン」に、あいこね学生FDスタッフ2名で参加しました。これは、参加者がグループトークの中でコミュニケーションする面白さを味わいながら新しく何かを始める『きっかけ』を見つけるイベントで、全体で100人ほどが参加していました。

今回のテーマは『キャンパス・ライフ』でした。そこで「学習」「活動」「就活」の3グループに分かれ、それぞれ「あなたが学校の勉強で良かったと思う体験は何ですか?」「今までやってきた活動は何ですか?」「これからやってみたい活動は何ですか?就職先を選ぶ基準は何ですか?」から話し合いをスタートしました。

初めは4人の小グループで話し合い、次に8人、16人と大きいグループに形態を変えながら議論していき、最後に各テーマ内全員でこのような意見が出たなどということを発表し合いました。みんなが思ってもいなかった意見が出て感心したり、対立する意見が出てぶつかりあったりもしましたが、全体として何回生であるとか教職員であるとかは関係なく、良い雰囲気できれいかつ真剣に意見を出し合いました。



私が参加した「学習」のグループでは、スタートから話をどんどん発展させ大学と高校までの勉強の違いについて話し合い、「自由」や「学生主体」「双方向」などの意見が出され、でも本当の大学の姿についても話し合いました。またどのようにしたら大学での勉強が良くなるかについてもグループ全体で頭を悩ませながら答えを探

り出しました。

答えを見つけられたりまた見つけられなかったりもしましたが、日常では考えられないようなことをみんなで考えることができました。そこからさらに「自分でどのようにしていくのか」「どのように考えていくのか」「これからが大事なのだ」という意識をキャンパス・ビジョン参加者全員が持ったと思います。

私もこれからのあいこねの活動で大学全体を考えながら一人一人の「こころ」を動かし、行動に変えていけるような話し合いの場を創っていけるように頑張っていきたいと改めて強く思いました。

(あいこね学生FDスタッフ 1年 高野真)



松田学長ら協定校南京師範大学訪問、学術協定延長調印式に出席(報告)

松田正久学長は 10 月 30 日(日)～11 月 2 日(水)の日程で南京師範大学を訪問し、南京師範大学宋永忠学長と学術協定延長の調印式に出席しました。

10 月 31 日(月)午前、南京師範大学随園校舎 100 号迎賓室で愛知教育大学と南京師範大学の交流協定延長の調印式が行われ、松田学長と宋学長がそれぞれ両大学の交流協定と学生交換の実施計画に関する調印書に署名しました。

協定によると、本学と南京師範大学は、今後 5 年間、両大学の教職員の交流及び交換留学生の派遣を引き続き推進し、協力するものとなっています。

本学は 1988 年に南京師範大学と協定を結びました。協定校の中でも最も早く協定を締結した大学の一つです。これまで双方の努力により、関係が深められ、両大学の教員の交流や交換留学生の派遣などの面で多くの成果を収めました。2004 年の法人化により本学の名称も変わりましたので、協定校との協定継続を確認する必要が出てきました。今回の訪問で本学と南京師範大学は交流協定の継続と更なる関係の強化を確認しました。

調印式に先立って、松田学長と宋学長が会談。両学長はそれぞれの大学の現状や目標及び今後の課題等について紹介した後、両大学の発展のため、交流関係の強化と相互的協力が不可欠なものだと共通した見解を示しました。

会談と調印式には、王建副学長、徐海寧国際交流処長、郭寧生教師教育学院副院長、嚴志軍外国語学院副院長、季愛琴東アジア学部長、林敏潔特別招聘教授、国際交流担当の王秋雯課長が出席。本学からは時衛国准教授(外国語教育)が同席しました。



11 月 1 日(火)、季愛琴先生と林敏潔先生の手配で、南京師範大学仙林校舎の外国語学院の大会議室で、松田学長が講演を行いました。学長は本学の歴史や現状、目標、課題等について紹介した後、ご自分の海外での留学歴や研究分野及び両大学の交流について話をしました。また、来年 1 月に本学で予定されている日本語講座についても、チラシを配って宣伝しました。日本

語科の学生約 60 名と教員 5 名が出席し、熱心に聞いてくださいました。

(外国語教育准教授 時衛国)

松田学長が第 2 回アジア教育大学学長円卓会議に出席(11/3)

11 月 3 日(木)、第 2 回アジア教育大学学長円卓会議が本学の協定校でもある香港教育学院で開催され、松田正久学長が出席した。この会議は 2009 年 5 月に第 1 回が同学院で開催されたが、当時の新型インフルエンザ流行により本学は出席を取りやめており、今回が初の出席となった。

会議にはアジア及びヨーロッパの 13 の国、地域から 36 大学・高等教育機関の代表が出席。「国際社会においてアジアの教育の重要性が高まる中、アジア諸国は異文化理解と自国・自地域の伝統の再



認識を重視すべき」と強調した香港教育学院 Anthony B. L. CHEUNG 学長の開会挨拶に続いて 3 つのセッションが実施され、教育における生産性やアジアの知恵の伝達、教育大学におけるリーダーシップへの挑戦、等のトピックについて松田学長をはじめ各大学・機関の代表者の間で活発な議論が交わされた。

また、会議終了後に開催された懇談会では、アジアの教育という

キーワードの下、参加者は様々な意見を交換し親睦を深め合った。

第3回アジア教育大学学長円卓会議は、2013年にマレーシアの Sultan Idris Education University で開催される予定。(教育創造開発機構運営課 国際交流センター 宮内春菜)

学長が国会議員らに予算要望(報告)

松田正久学長は11月14日(月)から21日(月)にかけて、国会議員らの事務所を精力的に訪問し、本学の実情を説明し、2012年度予算の運営費交付金確保などについて理解を求めた。

14日、学長、白石薫二理事は愛知県選出の衆参両院議員を中心に、東京の議員会館を回り、東日本大震災への学生ボランティアによる学習支援、運営費交付金削減による大学運営の危機、国家公務員給与削減の影響に対する懸念などを資料に基づいて説明した。中には「大震災復興予算は別枠で、そのために高等教育予算を削るのは間違い」と理解を示し、大学職員の低い給与水準に驚く国会議員もあり、それぞれ学長の要望を党、政府へ伝えることを約束した。

学長が教員はもちろん、地域に定着する優秀な人材育成も国立大学の大きな役割、と強調すると、外部資金獲得が困難な教員養成系大学に理解を示し、大きな地域貢献を評価する声も聞かれた。

なお、学長はその後、国会議員の地元事務所を訪問したほか、10月中旬以降これまでに、地元メディア幹部、市長、教育長に、本学の実情を報告するとともに、地域に貢献する大学として今後も連携を強化していく姿勢を伝えるなどしている。

招へい研究者による講演会(報告)

今年度より本学で開始された「海外協定校からの教職員招へいプログラム」により来日した招へい研究者による講演会が、11月15日(火)、大学会館中集会室で開催された。



講演者は、タイのラチャパット・ラチャナカリン大学日本語講師であるパンティワー・クリットワッタナーコーン先生。パンティワー先生は10月15日(土)に来日、11月22日(火)までの1カ月強の間、共同研究者である日本語教育講座の稲葉みどり教授の協力のもと、日本語教育に主眼を置いた研究に取り組み、学生への講義も行った。

講演会には、松田正久学長と役員、教職員の他、日本語教育講座の学生や留学生、招へいプログラムにより来日してい

る研究者2名も出席、パンティワー先生が作ったタイのお菓子を味わいながらの和やかな雰囲気の中、タイにおける日本語教育の実態と課題を中心に、活発な質疑応答を交えた発表が行われた。

発表後、パンティワー先生から本学に対し、招へいの機会が与えられたことについて感謝の意が述べられると、学長からは「この招へいを機に、タイを含めた海外協定校との学術交流をさらに深めていきたい」と、意欲的な言葉が寄せられた。

今年度は、パンティワー先生を含め全9名の海外協定校教職員招へいが予定されており、今回と同様の講演会も随時開催される予定。



(教育創造開発機構運営課 国際交流センター 宮内春菜)

催しもの案内

◆「市川房枝 没後30周年記念企画展」

12月20日(火)まで。

附属図書館2階 アイ♥スペース 入場無料

愛知県女子師範学校(愛知教育大学)を卒業し、男女共同参画に偉大な功績を

残した市川房枝さんの生涯を、パネル・蔵書・遺品を展示して紹介。

12月7日(水) 12:40～(約20分間)、劇団把^o夢による演劇「見よ、飛行機の
高く飛べるを」を上演。

問い合わせ：情報図書課 TEL 0566・26・2683/2687

<http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/>

◆愛知教育大学天文台第68回一般公開「皆既月食観望会」

12月10日(土) 20:00～ 入場無料、申し込み不要

自然科学棟5階・地学538教室

20:00～21:00 天文ミニ講座「日食と月食」講師：澤武文教授

21:00～「木星と皆既月食観望会」

問い合わせ：理科教育講座 天文学研究室

TEL 0566・26・2624

<http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/>

◆第35回冬の子どもまつり

12月11日(日) 9:00～15:00 参加無料、雨天決行

子どもたちと学生が、ミニゲーム、宝探し、プレゼント抽選会などを通して触れ合
う、本学の恒例イベント。詳細は「子どもまつり」ホームページを参照。

http://www.aichi-edu.ac.jp/gakusei/kodomo_fes/

編集後記

前号では「日銀グランプリ」決勝に本学学生出場を、今号では美術の学生、教員の受賞・入選
を、それぞれお伝えしました。それぞれの頑張りが評価された結果だと、嬉しく思いながら取材
させてもらいました。音楽科の学生たちのミュージカルは、予想を遥かに超える出来栄で、ア
ンケート回答に「劇団四季を超えた」と書かれた感想にも納得。一公演ではもったいないなあ
と感じたのは、私だけでないはず。そんな皆さんの活躍のお陰で、いつもの1.5倍にボリュ
ームアップとなったAUE News第29号が完成！ 編集のし甲斐がありました。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュース
の提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二